

希望の金額であつたが、十年後の今日、ノロエ・ステ邦人殖民の栽培カフェー生産數は二千五百萬株を突破して、その中少くも二千萬株は產樹となつてゐる。常州政府が、カフェー生産一株二ミルレーヌ担保と法的保額をきめた値段からしても、ロエ・ステ邦人所有のカフェー樹數二千万株は、四万コントローブル段がある譯である。

其他ベンフエトトリアを加算し、ノロエ・ステ邦人殖民各譯の重なるもの二三名の財産を合あれば、千五百コントスを捻り出すには、余り苦しみ時代となつて居る。

プラ拓が本年度事業設備費共九万圓を、政府から取り上げられた事が、眞實であつたにして、最も在籍邦人殖民の心理には、決して脅威を感じない。

何故なら、卅九万圓即ち千五百コントス位の金は前述の如く

「あんなに會社の金で旅行し、廻つて居たら、會社の金は會社の事業が成長せぬ前に喰つちう」と、中には心配して居たのもあった。

卅九万圓、一千五百コントス、成程、ノロ線邦人殖民の物持人のものを合せたら、其額にする金額だ。

然し、ブラ招の取戻されな額も、アマゾン興業の總資金もノロ線邦人殖民一人で持つ居る人は、一人もまだない。金額である。

殖民一人の財産で、卅万と四十萬圓が、立ち處に紙幣の耳たそねて並べられる時代、それは今後の十年に招來し得るであろうか。

小成に易んぜず、邦人殖民とは今後の大成にブラジルではあるまい。が、お互いに所謂緊縛一綱を要する。

山男の旅 (3)

不出來な自己辯護をしてゐ  
もしまれく、いりがない。七時の  
車が着いたらしく街がざわつ  
本ラブルブロゲッソンにも二三  
客らしいのが見ゆる。  
其の中にムレイと呼ぶ一米  
があつた。美しく禿の頭が又  
なく可愛らしい。ボッボの様  
目をくるりと廻して。流暢な  
本語で、  
「私ボルトガル語を知りませ  
ん、日本語を少し話します。  
日本におりました、横濱私居  
な處です、今宿り度です。  
お部屋出来ますか？私の爲に  
内役の豊富さん、すつか  
面食つてゐる、強ち豊富さんで  
なくとも一寸挨拶に困るだら  
ルゼンチソに轉任になり、途中  
イグアスーの瀑布を見物の目的  
して三四五年日本にゐて、今まで  
廻り道をしたと云ふて居た。

十時の汽車までには未だ充てに時がある。外國に在つて、も外國人から懷しい日本語をうは考へてゐなかつた。特に歌舞伎が、素的な音楽に聞こね半時間も過ぎぬ中につかは、面白い、トランクの中から浴衣、帯、ペルトを取り出しあつて「私、これ毎日着ます」と仲良しになる。ムレイさんの娘しさうに紹介する。一同奇に眺め、娘の顔の中の日本娘も笑つてゐる。實に詩的だ。フアラ、フーラ、ファース、ミスツランドヤボネース、イングレースルツグース、エカステリアーノ、グラナの栓が切られ、眼鏡がなされた台が出来上る。快成哉、私達旅先が祝されて嬉しい。

山男の旅

山內生

所謂堅樺一番

ノロ線の邦人植民成金、太田師富の二氏の財産を合すれば來上る金體である。  
先達アマゾン興業會社社長澤柳猛夫氏が、ノロ線邦人殖地を視察の途中、リース市の青年會アマゾン事情を講演された折の事だ。アマゾン興業會社の資本金は一体幾百萬圓であらうと、一聽講者中の或者間に囁きかはれた時、或人が三十万圓ださうな。  
と小聲で笑はせた。  
三十万圓なら、リンスの田中氏と松原氏と合せた位だな……  
と一人が勘定した。  
其の話のグルップは、互に眼を見合せて、温かく笑ひつた、其の夜此の人々の心についた、澤柳氏の禿げ頭から、黄金の御光がさしながら事実だつた。

季節的な漫語

あらう。——だが、その「本銀」もたぬものにとつては、持たが故に、その株式會社の内につて、かの高速度の衰弱へと立たれつゝあるものにては？

競馬とは何のためのものか——もし馬にして心あらば、るひは憤然としてその途中に止まりタンド縞羅の群衆についてかう怒鳴るかも知れない。「馬券！それは一體なれのものだ？」あゝだが畜生の悲しさある。が僕はこゝで、再びあれ、政府一統の「スポーツ獎勵」をひ出さう。それは畜生に向つ「馬匹改良」の必要を認めな如内務大臣は人間に向つて訓示るのである、「最後まで走れ！」日本武士道なり。」文部大臣は諭達するのである、「なんぢ敵を忘るゝな！これ大和魂り。總理大臣は咳一咳「あくでも競馬の馬あれ！」國產馬匹の改良が奨励されのである。「勇氣」に充ちた馬が、仕事に「熟練」な馬匹が、痛に對して無感覺な馬匹」が

をないか實にその飼主にとつては理想的な！だが斷じて馬は人でなく、人間は馬ではない。さてこゝに一つの奇跡が、等にとつては奇跡にも等しい異が、この競馬場裏に續々とて起り始めたのである。「馬魂があつた！」「馬」が憤然として立直り始めたのである。「馬券それは一體たれのものか！」これははしかし決しておとぎ話ではない。このがPORTの太乱！だが讀者諸君よ。馬は人ではなく、人間は馬ではない。されどもしこれが人間界の出来事であつたならば、これは決して奇跡でもなく盤異でもなく當然平凡なもの、一つにしか事等にとつては？人間をして、「馬の馬」ならしめやうとした等にとつては？思想が悪化しる！と彼等は慨歎するのである！そこでいよ／＼彼等は「馬奨勵」に力をいれるであらう

三

**THE YOKOHAMA SPECIE BANK LTD.**  
RUA DA CANDELARIA, 23  
CAIXA, 380  
**RIO DE JANEIRO**



横濱正金銀行

## 鄉里送金

# CASA TOZAN

MIZUKAMI & CIA  
COMMISSARIOS

Rua Cidade de Toledo, 25 — Caixa Postal, 911  
Endereço Telegráfico: "TOZAN". — Teléfone: 223

弊店取引方法は御照會を  
第一回取引申上候

カーサ・東山

サン・トス市  
珈琲コミサ



預金  
邦貨定期預金利息六ヶ月以上年四分五厘  
伯貨定期預金一ヶ月以上年四分五厘  
貨常座預金（小口）年四分  
▲預送金用紙は御請求次第直ちに御送り可致  
御不審の點は御遠慮なく御問合せ被下度候  
預金通帳は書留郵便にて御送附可申上候  
御申込の際は最寄郵便局御指定相成候は  
御便宜に有之候。







ゴヤンベの月景色「十六日」  
夕方L町でゴヤンベ（上塙第二  
植民地）に歸るHさんの車に便乗した、車中にはレヂストロから旅行に來てゐるSといふ年増の紳士と知り合ひになつたが、勿論、親しい會話も出來ればこそ氣を付けてゐないと、自動車のホロの外へ投げ出されさうだそれ程Hさんはスピードを出して乾燥しきつた凸凹道を走つた砂ホコリは、ノロエステの名物で、關東のカラツ風に似てるる日暮れに市街地まで着くと思つたが、何時か日の短いこの頃は暮れてゐた、そのかはり、何時

記者は是れから旅日記を綴らうとしてゐるのですが是れは常の日記ではなく、本社の命を受けた。明るい月光の下にチカチカ園、夜の植民地、さういつた時景が急に記者の胸に押寄せて來た。だが明るく澄み切つて丘からへと光を投げてゐた、夜の珈琲ノロエス記砂村

社 告

# HOTEL JAPONEZ EM FRETE Á ESTAÇÃO-NOROESTE BAURU'

# 日 本 旅 館

前驛テスエロノ市ルウバ  
平心山沖

寝やうと思つて立つた記者のカバンを見て、S氏始めて口を開いた様に、カバンが大きすぎて植民地では危険ではないかと云はれたので、記者は一寸成程と思つたが、誰でもが持つのは危険かも知れぬが聖州新報のTさんだけは御心配無用とは心で申つたのみで、口では有難う御座ります。と云つて寝室を別れか

持つてゐる。店には外語出の、番頭さんと運轉手と助手とが働いてゐるやうだ。其の夜は

さうした活躍家の日さんでも、  
ヤンベの家に歸ると四五人の子供達のバ、イで仲々の子凡惱(オイ)嬢(オイ嬢)さん、  
オイ大將(オイ大將)、なんかと合棒(あひわん)でも呼ぶ様に自分の子供達を  
さして云ふ程(こころ)、畠落(畠落)は生名(生名)。

と植民者の家の窓が彼方そのかた此古このきの丘に見えた、且さんは市地いちぢの一番高たかいに店を出してゐた、福岡縣人で鞆方肌とねりで外人びいんな

の間にか空は白く冷ぬ様に半  
つてゐた、満月には間のある日  
だが明るく澄み切つて丘から  
へと光を投げてゐた、夜の珈琲園、  
夜の植民地、さういつた時  
景が急に記者の胸に押寄せて來

新賣出地

◎理想的珈琲植付ケ用荒山賣出し

▲珈琲地帶五百八十アルケーレス

▲附近ニハ全部邦人諸君入殖ズミ

▲地主オリンビオ・メリース氏

▲地價七百五十乃至八百五十ミルレース

右之土地御視察ノ節ハ萬事左記代理人ニ  
問合セラ願ヒマス

リ ン 斯 町 粟 津 金 六 古 賀 勝

印 醬 油

是 非 御 家 庭 に  
お 試 し 下 さ い

富士山醤油釀造所

北西線ベンナ驛カフエランデア町

藤澤 豊次郎

東京館 マウア街

仲村渠三郎

大和坊 追健造

上地 上地彌藏

ときわ 石原桂造

旭 秋田桑三郎

末廣 中山忠太郎

おがわ 小川源右衛門

コンセレヨフルタド街六一  
コンデデビニヤール街二一  
コンデデサルゼーダス街二一  
コンセレヨフルタド街六一  
電話二一一五六三八

電話二一一四一〇一

電話二一一六一七三

二九一  
二九二  
二九三  
二九四  
二九五  
二九六  
二九七  
二九八  
二九九  
二九〇





「これは何の様でござります」  
「ア、新左衛門殿は御在宅  
かな、拙僧は大徳寺の一休ちや  
取へエ……暫らくどうぞ」  
と取次は早速この事を奥へ通ず  
ると、新左衛門は早速玄關へ飛  
び出し  
「新、これは／＼ようこそサア禪  
師此方へお通り下さるやう」  
とト寧に挨拶をする  
「鍋の月代、石の轍はまだか  
な」  
「新、まだ考へ中でございます」  
「そんなら一寸待つて居るま  
に行つて來やう、櫛屋藤兵衛の  
宅は御存じないかな、これは新  
左衛門も知るまい、假りにも寺  
との違ふところだ

「これは何の様でござります」  
「ア、新左衛門殿は御在宅  
かな、拙僧は大徳寺の一休ちや  
取へエ……暫らくどうぞ」  
と取次は早速この事を奥へ通ず  
ると、新左衛門は早速玄關へ飛  
び出し  
「新、これは／＼ようこそサア禪  
師此方へお通り下さるやう」  
とト寧に挨拶をする  
「鍋の月代、石の轍はまだか  
な」  
「新、まだ考へ中でございます」  
「そんなら一寸待つて居るま  
に行つて來やう、櫛屋藤兵衛の  
宅は御存じないかな、これは新  
左衛門も知るまい、假りにも寺  
との違ふところだ

Pharr  
Filh  
Cafeland  
不便もありません  
氏が居られます  
で醫師交渉に何等の日  
本人諸君に何等の日  
みになる事、新左衛門は禮儀儀  
しくれ出迎へをする。  
一一ハツハ……ナカ  
面白い  
なア、イヤ、行き先の宿を其處  
ぞと思はねば、踏み迷ふべき道  
もなきかな  
新、一人来て二人でかかる道か  
るを道教人と云ふぞ可笑しき  
「一人来て一人でかかる道か  
」「イヤそれは違う」  
が、二つ迷ふ道を教ん」とおおよ  
みになる此がニナ川と一  
休禪師

ソロカバナ線アベー市  
名越兄弟經營

行の屋敷でナカ／＼立派なも  
懷中寫真機  
並に寫真用具頒賣

「一「左様か……檜屋藤兵衛と  
れば私がゆく  
○尊師では……  
「イヤイヤ私が行く、穿き  
を出でして下され」  
と大徳寺を立ち出で、鷺ヶ  
へやつて来て、壇中檜屋藤兵  
の宅を尋ねて見たが更にわか  
ない、しきりにさがして居る  
ち彼のニナ川新左衛門のが  
てやつて来て、壇上

(第廿七席) どうも禪師には敵はないと云  
ので愈々一休禪師を崇拜して  
る、その翌日朝になると禪師  
例の如く佛前の禮拜を終り今  
も我部屋に歸つて來ると弟子  
が這入つて來て

滑稽頓智

Y. Shimizu  
Cirurgião Dentista  
-Promissão-

伯國最新式治療  
歯科醫 清水安丸

旅館  
福井上山

**CASA**  
**Ichinose**  
Araçatuba

Casa lyda  
H. IYDA  
Promissão, N.O.B.

**HOTEL SHOWA**  
Cafelandia - Penna

松岡歯科醫院

モは  
**Casa Asahi**  
R. TAGAMI  
Araçatuba

**T. SATOW**  
**ARMAZEM**  
**E HOTEL**